

埋文よこはま 11

財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター

平成 17 年 3 月 25 日発行



保土ヶ谷区明神台遺跡の発掘調査 — 団地の下に埋もれていた古代のムラ —

◆明神台へ

横浜駅から相模鉄道線の各駅停車に揺られてしばらく、
気がつく^{かたがわ}と電車は帷子川の流^{なが}れに並行して走っ

ていきます。さらに進むと、両側
の車窓にはひとときわ高い丘
の連なりが見えてきま
す。これは帷子川
の流^{なが}れが長い年
月の間に形成
した河岸段丘^{かがんだんきゅう}
の地形です。

星川駅で
下車し、電
車の進行方向
左前方に見え
る崖にとりつく
急な坂道を登って
いきます。坂道を登り
きると標高50mほどの平坦
な丘の上にたどり着き、眼下には
素晴らしい眺望が開けてきます。ここに
明神台団地^{みょうじんたい}があります。

◆明神台遺跡の発見

明神台団地は、横浜市保土
ヶ谷区明神台にあり、昭和34
(1959)年に建設されたもの
ですが、老朽化が進んだため、
建替え工事が行われることにな
りました。神奈川県教育委員
会は、平成16(2004)年1
～2月にかけて、ここに遺跡
があるのか無いのかを調べる



試掘調査を行い、その結果、弥生時代のものとみられる住
居の跡や、環濠^{かんごう}と呼ばれる溝の遺構が確認されたのです。
このため、平成16年4月から7月にかけて本格的な発掘調
査が実施されることとなりました。

明神台団地は、独立行政法人都市再生機構が建設する、
いわゆる公団住宅と横浜市が建設する市営住宅が建てられ
ている団地です。発掘調査は、都市再生機構の実施する事

業範囲の遺跡(B・C・D地区)を財団法
人かながわ考古学財団が、西に隣

接する市営住宅の事業範囲
の遺跡(A地区)を、
横浜市ふるさと歴

史財団が担当し
て、同時進行
の形で調査が
行われました。

また、今回の
調査終了後、
8月から10月
にかけて、さ
らに北側へ200m

ほどの地点(明神
台北遺跡)の発掘調査
もかながわ考古学財団によっ
て行われています。

ここでは、主としてA地区の調査につ

いて話を進めようと思います。

◆団地の下に埋もれていた遺跡

前にお話し
たように、こ
こでは、昭和
34年に旧団地
の建設が行わ
れており、そ
れに際して、
大きく地形が
改変され、遺



厚い盛り土の下に発見された遺構



縄文時代中期の住居跡

跡が残されている状態は、あまり良好なものではないだろうと思われてきました。しかし、調査が進行するにしたがい、遺跡は、外から運ばれた3mを越える厚い盛り土の下に残されていることがわかり、これまで建物の立っていた部分を除き、この客土層に守られるように、かなり良好な状態で保存されていることが明らかとなったのです。

発掘調査の結果、縄文時代、弥生時代から古墳時代、奈良時代の各時代にわたる遺構が発見されました。また、D地区の調査エリアでは、旧石器時代のナイフ形石器が出土しています。

◆縄文時代の遺構

今回の調査では、縄文時代中期末（約4,000年前）の住居跡が1軒だけ発見されました。4.8m×7mほどの「柄鏡形」と呼ばれる、周囲に柱穴を巡らせた住居で、中央部には赤く焼けた炉の跡が認められます。この住居は、遺物が非常に少なく、小土器片・磨製石斧など数点が出土しているのみです。

わたしたちの調査したA地区では集石遺構と呼ばれる遺構が11か所発見されています。この遺構は、握りこぶしほどの大きさの石やそれを砕いた石を集めたもので、火熱を受けた痕跡が多く認められることから、焼き石炉のようなものと考えられます。年代を示す土器片などが出土していないため、縄文時代のどの段階につくられたものかは、わかりません。集石遺構は、C地区の調査エリアでも2か所が見つっています。

A地区では3か所の土坑が発見されています。これは、上部の大

きさが1～2m、深さ1～1.5mほどの大きな穴で、動物捕獲用の罠の一種である「落とし穴」と考えられ、縄文時代早期（約8,000年



縄文時代の集石遺構

前）につくられたものと思われます。なお、C・D地区の調査エリアでも5か所が発見されています。

◆弥生時代から古墳時代の遺構

明神台遺跡の中心となる時代で、約1,900～1,700年前にかけてのものです。

A地区では22軒の住居跡が発見されています。一辺の長



弥生時代後期の住居跡

さが5mから7mほどの角の丸い方形、または方形のものが多く、地面を10cm～1mほど掘り窪めてつくった「竪穴住居」です。床面はローム層に達し、固くしまっています。



明神台遺跡の弥生式土器 左から壺・甕・高坏

床面には、赤く焼けた炉の跡、柱を立てた柱穴、入りの施設と考えられる穴があります。なお、隣接するB地区では、一辺の長さが14mを越える大型の住居が発見されています。

こうした住居跡からは、弥生時代から古墳時代前期にかけての特徴をもつ壺・甕・高坏などの土器が多く発見されており、土製の勾玉なども出土しています。

なお、この時期につくられた住居跡は、B・C・D地区の調査エリアで14軒、さらに200mほど離れた明神台北遺跡でも約20軒が発見されています。

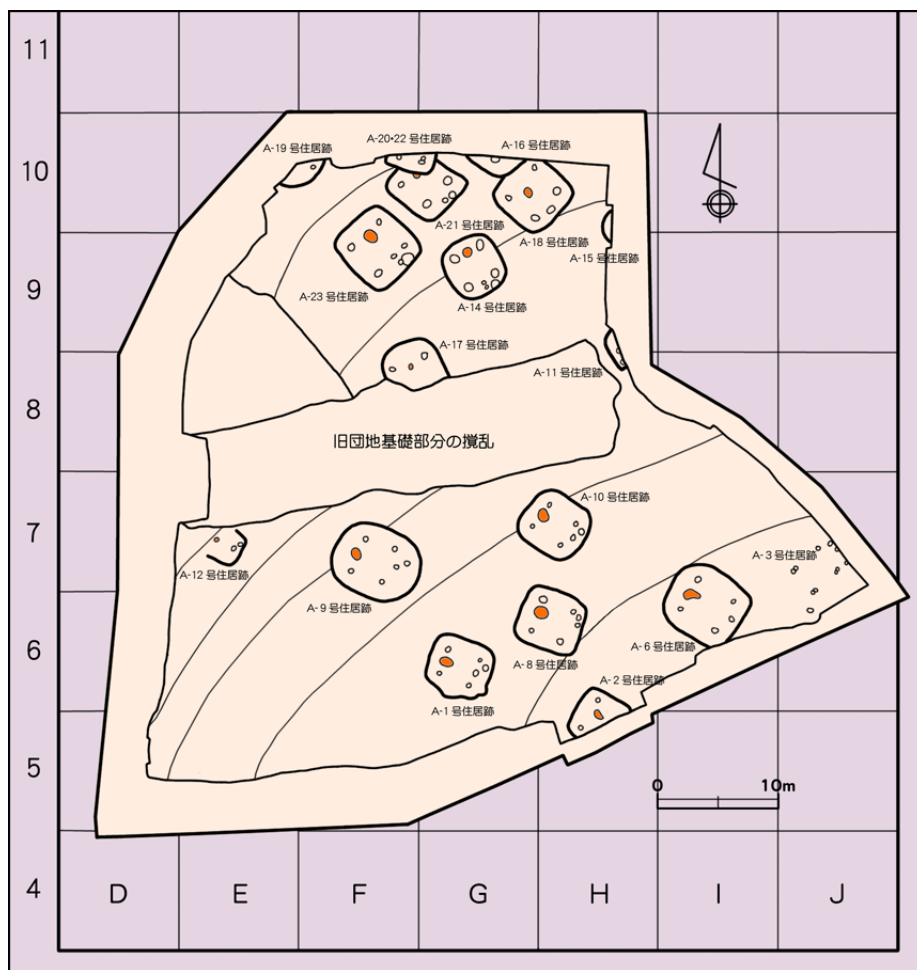
わたしたちの調査を行ったA地区では発見されませんでしたが、C・D地区の調査エリアでは、方形周溝墓と環濠と呼ばれる遺構が発見されています。方形周溝墓は、弥生時代から古墳時代前期にかけてみられるもので、方形に溝を巡らせたお墓と考えられるものです。また、環濠というのは、集落を区画するように掘られた大きな溝で、お城の堀のような防御的な機能をもった遺構とされています。



住居跡の床面にあった土器

◆奈良時代の遺構

A地区では、1軒ですが奈良時代の住居跡が発見されています。一辺が3mほどの四角い形をした小型の竪穴住居で、北西の壁には粘土でつくったカマドがありました。この住居からは、灰色をした須恵器が出土しています。



明神台遺跡A地区の弥生時代住居跡群

◆明神台遺跡の特色

以上、明神台遺跡の調査成果について簡単に紹介してきましたが、このうち特に注目されるのは、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構群です。かながわ考古学財団が調査を行った明神台北遺跡を含めると、この台地上には50軒を上回る住居跡や、方形周溝墓・環濠などが発見されています。こうした遺



住居から発見された土製の勾玉

構のようすは、明神台遺跡が、帷子川流域を代表する弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大規模な集落の一つであったことを物語っています。まさに現代の団地の下に発見された、古代の団地跡といえるでしょう。出土品の本格的な整理作業はこれから行われる予定ですが、こうした作業をとおして、さらに新たな発見が期待されます。

なお、この遺跡の見学はできません。



◆貝塚の位置と立地

青ヶ台貝塚は金沢区釜利谷東四丁目にありました。しかし、昭和42年に阿王ヶ台団地がつくられることになり、事前に発掘調査が行われました。そして、遺跡をのせる台地は団地造成のために20mちかく削平されてしまいました。今は貝塚があったことをうかがうことはできません。

◆青ヶ台貝塚について

貝塚は金沢区の中央部で西から東へのびる丘陵から北から南へ逆Yの字状にはりだす台地の西側の西青ヶ台と呼ばれていた台地の先端部につくられていました。その大きさは南北150m、東西120mで、舌状の形をしていました。標高は60m。現在の海岸線から青ヶ台貝塚まで約2.6km離れています。縄文時代中期後半から後期前半にかけて大昔の人びとが生活を営んでいました。遺跡をのせる台地の南下はかつて水田でしたが、その地表下約1.5mに自然貝層があったといいます。



青ヶ台貝塚の場所

◆発掘調査

遺跡の南東部が昭和16年に、そして北東部・南東部と西部が昭和42・43年に発掘調査されました。縄文時代中期後

半から後期前半の土器が発見されています。貝層の貝はスガイ・コシダカガンガラ・カリガネエガイ・アカガイ・ハイガイ・イタボガキ・マガキ・ハマグリなど、魚類



青ヶ台貝塚の後期の土器

はボラ・クロダイ・マダイ・サバ・マイワシ等、動物の骨はニホンケン・アナグマ・イノシシ・ニホンザルなどが出ています。南東部の貝塚は縄文時代中期後半から後期前半の時期の遺物と遺構が発見され、貝層はマガキ・カリガネエガイ・レイシ・イボニシが多く、イノシシ・ニホンザルが目立っていました。竪穴住居跡も3軒発見されました。北東部の貝層は縄文時代中期後半から後期前半の時期の遺構・遺物が出ています。貝はスガイ・コシダカガンガラが多く出土し、鹿角製の組合せ式逆刺付刺突具・鉾などの漁具がみられます。西部の貝層は縄文時代中期後半の時期に



シカの角でできた釣針と鉾

築かれていました。土器や石器のほかに鹿角製の有肩鉾頭・ニホンザルの尺骨を用いた骨針が出ています。

発掘資料は故佐野大和さんが保管されていましたが、ご遺族の方から当センターに寄贈されました。

埋蔵文化財センターのご案内

出土品や整理作業のようすを見学できます(予約が必要です)。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。

開所：午前9時～午後5時。土・日・祝日休み。

交通：東横線「綱島駅」より東急バス1番乗り場「勝田折返所」行終点。田園都市線「江田駅」より東急バス「綱島駅」行「勝田」下車。

ホームページアドレス
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html>

*「埋文よこはま」は、横浜地域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋文よこはま 11

発行日 2005年3月25日

編集・発行 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 760

TEL 045-593-2406

FAX 045-593-2403